

講演会アンケート結果報告

2026年3月26日
一般社団法人山梨県情報通信業協会
ダイバーシティプロジェクト

この度、一般社団法人 山梨県情報通信業協会（以降 YSA とする）のダイバーシティプロジェクトでは、「ポピュラー・カルチャーから見るジェンダーと無意識の思い込み～職場や日常に潜む偏りを考える～」をテーマに、専修大学国際コミュニケーション学部教授の河野真太郎様を講師にお迎えし、講演会を開催いたしました。集計しましたアンケート結果を報告いたします。

開催日時・会場

2026年2月12日（木）14：00～16：00
山梨県立図書館 多目的ホール

講師

専修大学 国際コミュニケーション学部教授 河野真太郎様

テーマ

ポピュラー・カルチャーから見るジェンダーと無意識の思い込み
～職場や日常に潜む偏りを考える～

対象者

YSA 会員企業の社員

参加人数およびアンケート回答率

参加者 36名
アンケート回答率 100%（回答者：36名）

アンケート結果からのまとめ

参加者全員よりアンケートにご回答いただきました。幅広い年齢層にご参加いただき、特に30代～50代が全体の78%を占めていました。また男女比は、男性39%、女性58%（未回答1名）で、参加者は性別に関わらず今回のテーマに関心を持たれていたことが推測されます。

講演会の内容・講師の進行について、概ね全員がスムーズかつ内容がわかりやすいと回答しており、参加者の皆様に満足していただけたことがうかがえます。今回のテーマである「ジェンダー」や「アンコンシャス・バイアス」の重要性については、92%が“気づき”や“理解”を得たとして認識にプラスの変化を感じていました。

「あまり変わらない」とした少数も、もともと重要だと考えていたうえで「新しく知った」と答えていたため、重要度の水準は高いまま、理解度の深さと確信が増したことが読み取れます。講演会の所要時間は92%が「適切」と感じる一方、ごく一部では「短い」「長い」と感じる人もいました。

当プロジェクトへの開催要望として特に多かったのは「人材育成（43%）」、続く「ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン（DE&I）（21%）」「女性活躍推進（13%）」「男性の育休取得（11%）」の順で関心を持っていることがわかりました。その他の回答として「AI活用」「人材活用」「生産性向上」などが挙げられ、参加者は“人と組織の力を最大限に発揮できる仕組みづくり”に関するセミナー内容を求めていると考えられます。

参加者の感想からは、講演会を通して、多くの方が「自分は思った以上に決めつけや先入観で人や物事を見ていた」と感じた様子がかがえしました。無意識の思い込みがマイクロアグレッション、さらにはハラスメントへとつながる危険性を実感し、「相手を決めつけない」「見えている情報や知っている情報だけで判断しない」「発言前に一度考える」といった姿勢の重要性を改めて意識する参加者が多くみられました。また、マイクロアグレッションやバイスタンダーという概念は特に印象に残ったものとして挙げられ、「何気ない一言も問題になりうる」「周囲で見かけたら注意したい」「一人ひとりが生きやすい環境づくりに関わるべきだ」といった前向きな感想が多く寄せられました。ディズニー作品など身近な題材や具体例がわかりやすかったという声があった一方で、「これはNG/こう言い換えるべき」といった、より実践的な具体例を求める意見もありました。また、コミュニケーションの難しさや不安を感じつつも、「日常生活や仕事で今日の学びを意識したい」「偏った考え方に流されないうよう努力したい」「若手として上司や幹部にも価値観の変化を促していきたい」といった、学びを行動につなげようとする姿勢が全体を通してうかがえました。

以上